

連携医院のご紹介

「優しく、そして常に相手の気持ちに立って」をモットーに診療をされている、中区舟入本町にある“山代眼科医院”の山代浩人院長にお話を伺いました。



山代院長

山代眼科医院

〒730-0843
広島市中区舟入本町7-15
電話／082-231-5989
院長／山代 浩人
専門／眼科



外観

○いつ開業されましたか。

平成9年4月1日です。当院は昭和36年に私の父(故:山代睦美)が開設したので正確に言えば開業というより継承して現在に至っています。また継承とは言っても、父はその後10年くらい(~80歳頃)は、少しでも外来診療をしてくれていましたので、今あらためて考えてみても、よく頑張ってくれたなと思っています。あっ、これは質問と関係ないですね。すみません。(笑)

○開業されてから今までのことを教えてください。

開業後は白内障を中心とした手術治療をメインに行っていました。私が赴任して診療体制や診療内容が大きく変化したわけですが、スタッフは何事もなかったかのように対応してくれありがたかったです。白内障手術は計3,500眼くらいさせていただきました。また開業してからの25年のうち10年間を広島市医師会理事、そして4年間を県眼科医会会長、その他にも日本眼科医会代議員やひろしまドナーバンクの理事等、自分の能力以上の役割をたくさん経験させていただきました。その時の経験のおかげで、いろんな視点から眼科医療や医院の運営、そして少しげさに言えば生き方までも見極められるようになり、多くの面で大変役に立っていると感じています。また現在は広島大学眼科同窓会会長をさせていただいています。

○力を入れている事など教えてください。

数年前に手術をやめたのですが、それからは、眼科疾患は一旦罹患して悪化すると元に戻らないものが多いので、そうならないための予防治療に力を入れています。その中でも特に、眼底系疾患の予防と早期発見、そして近視進行の予防等に注力しています。特に近視は、近業の増加により現在世界中で急増しており、そして強度近視になると、黄斑萎縮や緑内障、網膜剥離といった失明に至る眼底疾患を発症するリスクが高まります。強度近視を予防するには子供の頃からの対策が必要ですし、昔と比べ治療の選択肢が格段と増えてきているので、現在近視進行予防を人生最後の(笑)ライフワークにと思って取り組んでいます。

○毎日の業務で大切にされている事や、やりがいは？

ご高齢の患者さまが多いので、できるだけ寄り添えるように、

そして少しでも明るい気持ちになって帰っていただくようにと日々心がけています。また個人のことでは、私の基本スタイルは、『自分がどんなにつらくとも周囲への気づかいを優先する』『現状に満足した時点で成長が止まる』で、それらをモットーに診療や普段の生活を行ってまいりました。これらは元々の自分のスタイルですから比較的無意識にできるのですが、やはり加齢に伴いむずかしくなってくる部分も出てくるでしょうし、これからは以前よりも意識することも必要になってくると思っています。

○県病院はどんなところですか。県病院に一言。

30年以上前になりますが、実は私も県病院に在籍していたことがあるので思い入れが強い病院です。県病院は大学病院に匹敵する医療レベルを持っている大病院です。それ故、敷居が高くなるリスクも秘めていると思いますが、県病院はもちろんそんなことはまったくない素晴らしい病院だと思います。院長の板本先生はすごく気さくで感じのよい先生で、個人的にもサンフレチエ会(サンフレッチェが好きな同業者で集う会)等で親しくさせていただいています。因みに私、この広報誌「もみじ」の板本先生の「外科医の独り言」の大ファンで、毎回楽しみに読ませていただいています。また眼科部長の宮城先生(令和4年3月取材時点)も優秀で医療レベルも高く、いつも大変にお世話になっています。広島大学眼科同窓会でも役員で一緒にさせていただき、いつも助けていただいています。

【取材後記】

お昼時の取材でしたが「優しく、そして常に相手の気持ちに立って」というモットーの通り、大変ご丁寧に対応いただきました。

2022年6月広報誌『もみじ』掲載

